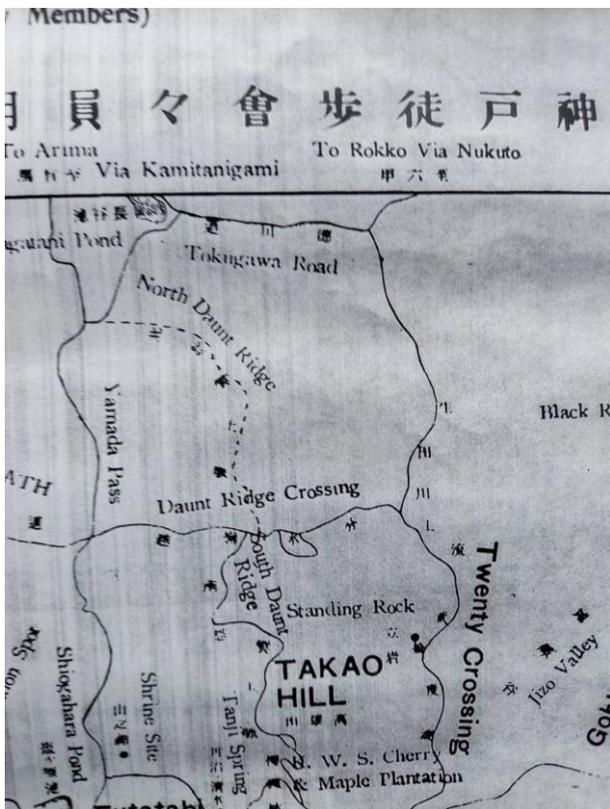


03月21日(祝)開催 第3176回例会
兵庫県山岳連盟同調 神戸背山の歴史山歩

「まぼろしの北ドーントリッジを訪ねて」

布引支部(兵岳連普及委員会所属)吉野 宏

兵庫県山岳連盟の事務局がある神戸登山研修所は、連盟の理事職が主となって交代当番をしているが、数年前まで「ドーントリッジの名に魅かれ、地図で確認し登山に出掛けたが、南ドーントリッジは解って歩けたものの、北ドーンと表示されたところを歩いたら、どうもそこが本来の道ではないらしい!どこが本来の北ドーンと道か教えてほしい!」と問い合わせがよくあった。



①大正2年頃の神戸徒歩会會員用背山地図

急速なスマホの普及で、良いも悪いも情報は瞬時に得ることが出来、今はそんな問い合わせは無いが、当時はハイキングコースでないコースを教えて良いものか?少々迷った記憶がある。ご存知のように「ドーン・リッジ」とは神戸の背山・六甲山をこよなく愛し、日本のアルプスの山々までも世界に紹介したH・Eド

ントが好んで歩いていた再度山の北東側にある高雄山から北へ延びたやせ尾根(リッジ)のことである。分水嶺越を挟んで高雄山方面へ行く尾根筋をサウス・ドーントリッジ、森林植物園方面に行く尾根筋をノース・ドーントリッジと当時のドーンとを取り巻く山仲間が名付け、そう呼ばれてきた道だ。

ノース・ドーンとは分水嶺越の端から入り、途中からその森林植物園との境界線を中心に歩く痩せ尾根で、自然に園内に入ってしまうのと、崩壊が進んでいるのでハイキング道としては適さない為、現在の表示は東側の森林管理道につけられているのではないかとと思われる。

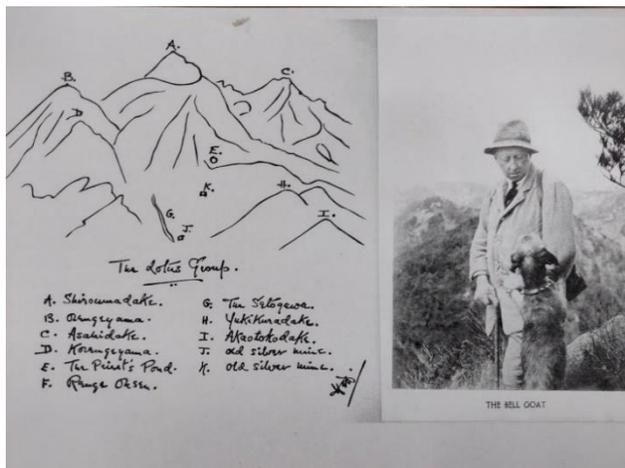
(①及び②の地図参照)



②現・地理院地形図から北ドーントリッジを辿る

H.E ドーンについてもう少し記しておくと、彼は六甲山に留まらず、日本アルプスの山々を世界に紹介したことで登山家として有名だが、ゴルフの名手でもあり、神戸ゴルフ倶楽部では倶楽部チャンピオンに6回も輝いている。又、日本アマチュアゴルフ選手権でも優勝しているほどゴルフの達人でもあった。

六甲山上にあったドントの山荘は「ドントロック」と呼ばれ、始終ゴルフ仲間達のたまり場になっていたようである。



(HE ドントがスケッチした白馬岳と本人の写真)

明治 44 年、ドントを中心に当時の在留外国人達によって設立された「神戸カモシカクラブ」。そして、このクラブの英文機関紙として大正 4 年から同 13 年まで発行された 18 巻に及ぶ「INAKA」については又の機会に触れさせて頂く。

.....

8 時 30 分、諏訪山児童公園に集合。



(大龍寺山門下にて・歴史散歩参加の皆さん)

予想していた参加者数を大きくオーバーする 43 名（男性 15 名・女性 28 名）の方が集われた。他の登山会は深刻な会員減で、山行も寂しい限り！と耳にするが、当方はコロナの終結かと思わせるほどの盛況で、嬉しい限りである。



(勝手に入口表示が書かれていた)



(北ドント・リッジの一部を歩く参加者)

出発のコース行程を再度筋にするか、布引筋にするか計画時点では迷っていたが、ドントさんの歴史を考えると、再度筋から当時の歴史をたどりながら訪ねたのは正解であった・・・。紙面の関係で行動の詳細は割愛させていただくが、参加された皆さんにとって、天候に恵まれた初めてのコースは満足された歴史山歩であった様に思うが如何だったでしょうか？

天 候 晴 れ

参加者 43 名（内ヒヨコ 36 名）